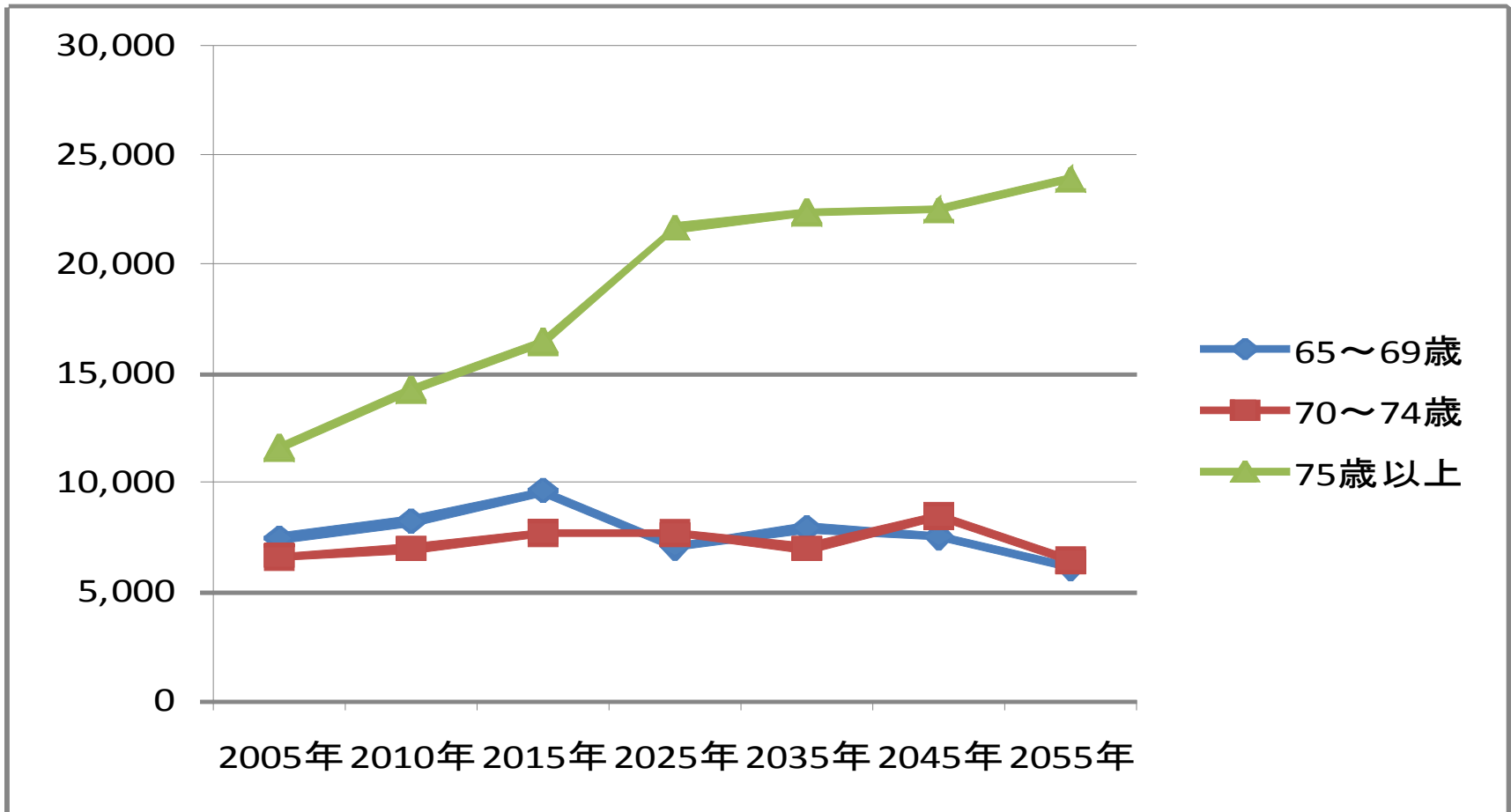


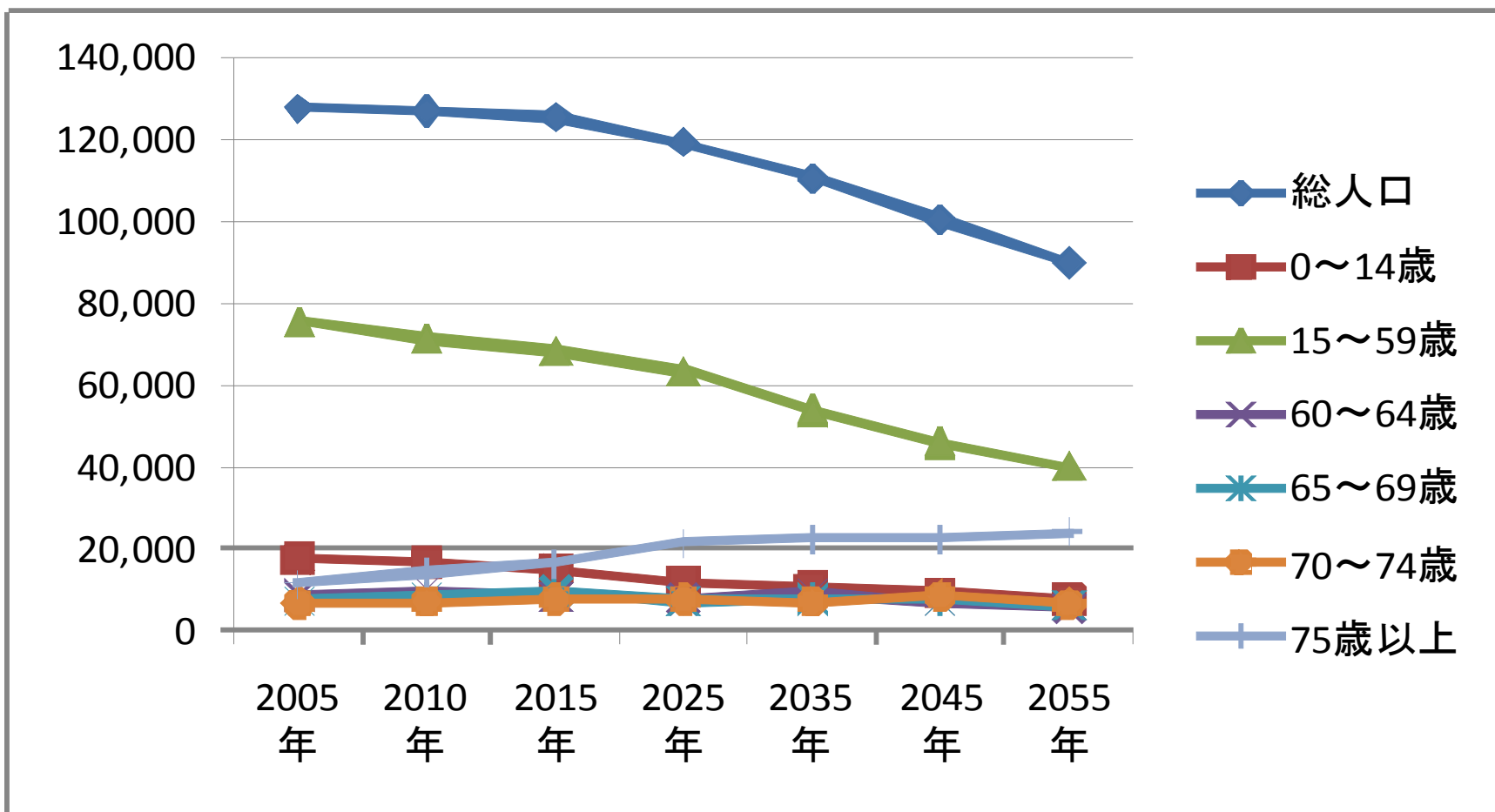
第1章

高齢者を取り巻く社会情勢

高齢者の現状および予測



高齢者を支える状況 —さらなる少子化—



地域ごとの違い

表1 高齢化率が高い市町村及び低い市町村(%)

	市		町村	
高い市町村	北海道夕張市	39.7	群馬県南牧村	53.4
	北海道三笠市	38.3	三重県紀和町	53.4
	大分県竹田市	38	福島県昭和村	52.4
	石川県珠洲市	37.3	山梨県芦川村	51.8
	北海道歌志内市	36.8	福島県金山町	51.8
低い市町村	千葉県浦安市	9.1	東京都小笠原村	8.5
	埼玉県和光市	11.9	愛知県三好町	10.5
	埼玉県戸田市	12	愛知県長久手町	11
	茨城県守谷市	12.1	宮城県富谷町	11.4
	滋賀県栗東市	12.2	沖縄県西原町	11.9

団塊の世代について

表2 「団塊の世代」の居住地区(万人)

	1950年	2005年
全国総計	774	678
三大都市圏	243(32.7%)	334(49.2%)
その他地域	501(67.3%)	345(50.8%)

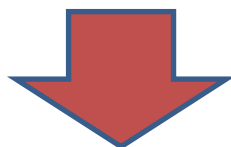
- 被雇用者、核家族、権利意識、社会活動

家族と居住空間

高齢者家族世帯：1,829万世帯、38.5%。

老夫婦世帯：540万世帯、29.5%

単独世帯：410万世帯、22.4%（2006）



老夫婦世帯：594万世帯、31.2%

単独世帯：393万世帯、20.7%（2025）

経済状況

- 所得格差大
- 収入内訳：公的年金・恩給 70%
稼働所得 18%
仕送り等 5.7%
社会保障給付金 0.8%

(生活保護給付を受けている者

高齢者の39.8%、女性単身世帯、徐々に増加)

今年度の事業目的

- 作業に関する多様なニーズを包括的に把握し支援・実践できる包括マネジメントモデルを提言。
- 作業遂行力向上プログラムの効果を検証。
介護現場で作業を活用する支援方法を標準化。
介護の現場職員に教育、普及できる指導者に作業療法士を養成する。
- 高齢者が生活行為や余暇・社会活動などの包括的な作業に積極的に参加することにより、健康だと感じ満足が得られる総合的で新たなサービスモデルを示す。

作業をすることで人は健康になる

- 作業とは、人が生きる上で必要なさまざまな営みに生じる行為を指す。身辺処理動作から、家事などの手段的日常生活動作、余暇的作業、仕事などの生産的作業、地域活動などがある。
- 私たちの生活はその人に「意味のある作業」の連続から成立。人は「意味のある作業」を続け、作業の結果から満足感や充実感を得て、健康であると実感する。
- 高齢期は、作業の作り直しが求められる時期。
- 生き生きとした活動的な生活を送るためには、高齢者が継続したいと思っている「意味のある作業」を再び行えるようにする支援のあり方が求められる。

高齢社会と健康感

- 高齢者が「自分は健康だ」と思えるサービス提供のあり方を構築することが必要。
- 高齢者の持つ能力をIADLに活用し、生活を維持することが重要。
- 趣味・興味、知的活動、身体活動、レクリエーション、社会活動等、さまざまな作業による多様な関係の互助を促進。
- 高齢者は自らが自分らしく生きるために、社会資源を選択しそれに参加することで、介護されつつも社会に貢献でき、健康で満足できる人生を送る。